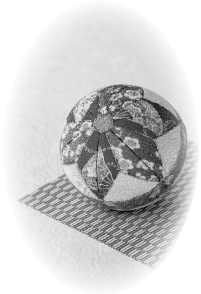
特集　伝統工芸品産業の今――新たな価値を創造する人たち

第１章

伝統の技が開く新時代のものづくり



「伝統工芸品産業の今」執筆チーム

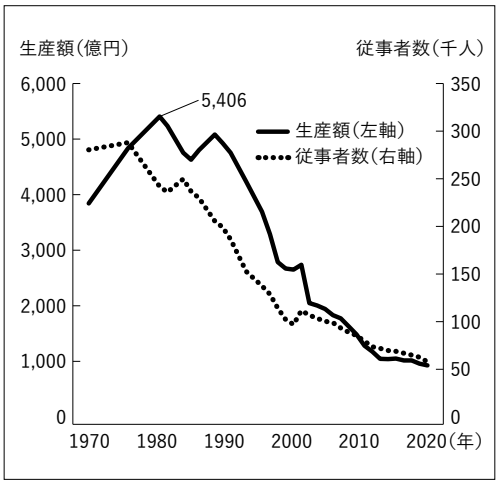
１．伝統工芸品の現在地

織物，陶磁器，金工品などは日用品として日本各地で生産されてきた。代々磨き上げてきた職人技と美意識により，やがて伝統工芸品※として日本文化の重要な担い手となった。

伝統的工芸品産業は長らく地域の経済発展を支え，1983年には生産額が5,400億円に達した（**図表**）。

しかし，生活様式の変化に適応できず，2017年には927億円まで落ち込み，最盛期からは1/5以下の水準となっている。同様に従事者数も大幅に減少している。

図表　伝統的工芸品の生産額・従事者数



出所：一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会「業種別生産額・従事者数推移」（2024年）より筆者作成

この現状を打破すべく，経済産業省では意欲ある地域へ支援を行っている。需要開拓や後継者育成を中心に，2024年度では伝統的工芸品産業支援補助金などに合計10億円以上を予算化している。

また，伝統工芸品産業を産業としてとらえるだけでなく，訴求力のある観光資源として活用している事例もある。インバウンド向けのツアーに工房訪問，伝統工芸体験を組み込むことで付加価値を高めている。

伝統工芸品は多面的価値を有しており，さまざまな魅力の引き出し方があるのだ。

２．特集の概要

本特集では伝統工芸の強みを生かし，新たな価値を創造してきた中小企業を紹介する。今回は４社しか紹介できないが，伝統工芸品にかかわる多くの企業で，今日も新たな価値を創造すべく挑戦が続けられている。

本特集で紹介する企業の取組みが，全国各地の伝統工芸に携わる方々，支援する中小企業診断士にとって参考になることを執筆チーム一同願っている。

※本特集では，経済産業省の各種制度による指定の有無（指定された工芸品を伝統的工芸品と呼ぶ）にかかわらず，各産地において受け継がれてきた（食料を含む）製品を伝統工芸品として取り扱う。